

経営比較分析表（令和5年度決算）

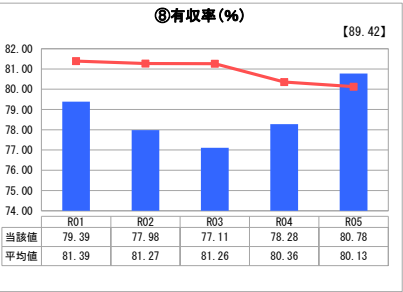
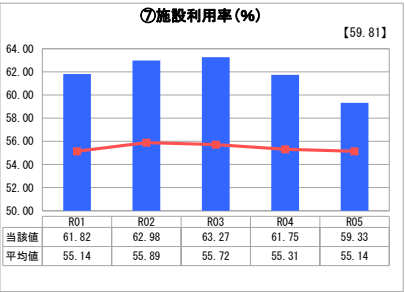
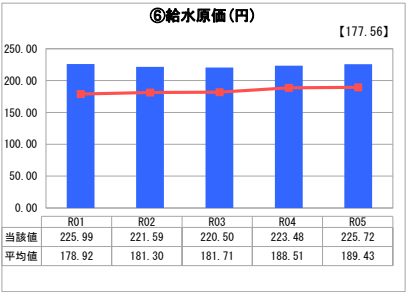
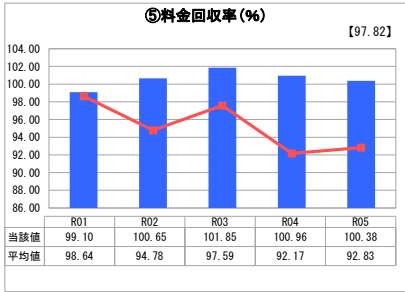
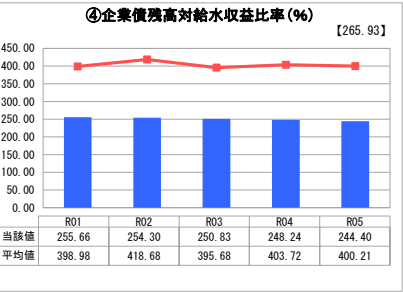
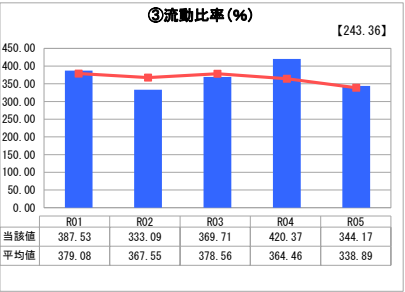
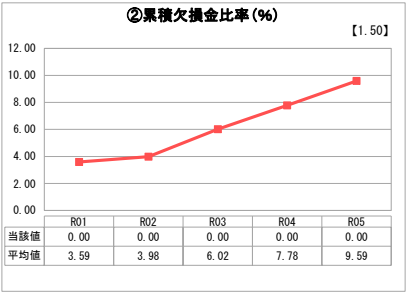
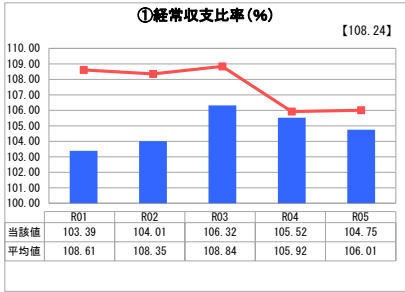
山形県 上山市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A6	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	69.10	98.61	3,795	

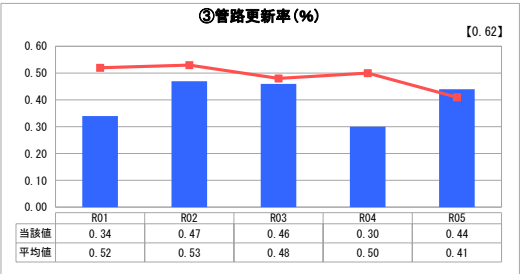
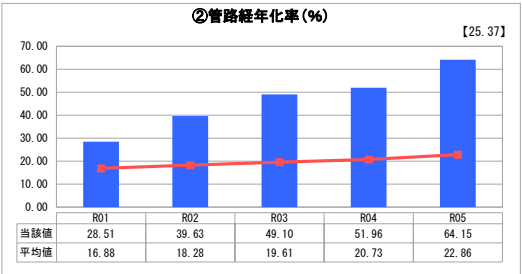
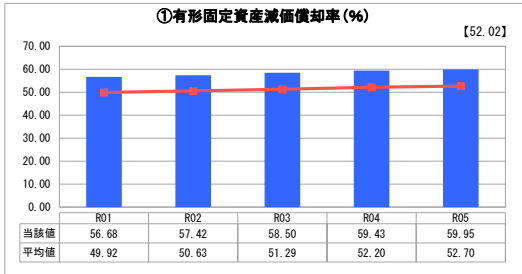
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
28,084	240.93	116.56
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
27,506	37.80	727.67

グラフ凡例
■ 当該団体値（当該値）
— 類似団体平均値（平均値）
【】 令和5年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

- ① 経常収支比率
100%を超えて黒字を確保しており、おおむね健全な経営であったが、類似団体の平均を下回っており、今後健全経営を維持するためにはより経営改善に取り組む必要がある。
- ③ 流動比率、④ 企業債残高対給水収益比率
流動比率は100%以上を超えており、支払できる現金は十分確保し、さらに借入金額を企業債償還額以下に抑え残高の縮減に努めている。今後の更新需要増大に際し企業債を活用した更新投資を行いながらも、健全経営が維持・確保出来るよう計画的な取組を進めていく。
- ⑤ 料金回収率、⑥ 給水原価
100%を超えており、給水の費用が給水収益でまかなえているが、広域水道からの受水によるため給水原価は類似団体平均より高くなっている。
- ⑦ 施設利用率、⑧ 有収率
施設の利用率は60%を下回り、適正規模を検討していく必要がある。有収率は類似団体の平均値を上回っているが、まだ80%台であり収益に結びつかない水量が多い。漏水の早期発見・修理と管路の更新を計画的に進めることで有収率の向上を図っていく。

2. 老朽化の状況について

- ① 有形固定資産減価償却率
② 管路経年化率
③ 管路更新率
有形固定資産減価償却率は緩やかに増加し、管路経年化率の大幅な上昇がみられる。拡張工事時期に一齐に取得した管路の更新需要がピークを迎えているが、管路の更新率が低く更新需要に追いついていない。
アセットマネジメント等を活用しながら、ダウンサイジング・スペックダウンを検討し、また効率的な管路更新計画の策定や施設更新を進めることで、安全性を高める必要がある。

全体総括

経営状況は安定し、現在は健全な経営を保っているが、人口減少に伴い給水人口は減少傾向が続き、水需要も減少していく。反面しばらくは物価高騰などの要因で維持管理に要する経費の増加が続くと思われる経営環境は益々厳しさを増すと考えられる。今後は一層の有収率の向上と業務の効率化を図る取組を進める必要がある。
効率化の一環として官民連携や広域連携の取組についての調査研究を進め、より効率的な運営を目指すしていく。
また管路の老朽化に対応するため、ダウンサイジングや更新計画の見直しを進め、効率的・計画的な管路更新と維持管理を実施し、全体の安全性と効率性を高めていく。